

第6回中部ジオ・テク塾開催報告

- (1) 主催:中部土質試験協同組合, 後援:公益社団法人地盤工学会中部支部, 中部地質調査業協会
- (2) 講師:名古屋市上下水道局 技術本部計画部 下水道計画課長 小野田 吉恭 氏
- (3) 演題:「なごやの下水道」と「雨に強いまちづくり」
- (4) 開催日時:23年3月16日(水) 18:30~20:30
- (5) 開催場所:ウイングあいち(愛知県産業労働センター) 会議室1208号室
- (6) 参加者:29名
- (7) 当日提供された主な話題

① 名古屋市の東日本大震災への支援状況と現場からの報告について(特別報告)

東北地方太平洋沖地震の発生により, 水道施設への被害が甚大であることが予想されるため, 日本水道協会本部の要請を受け, 被害状況の調査並びに応急給水を行うため, 11日午後8時に被災地に向けて先遣隊を派遣し, 12日(土)午前6時に第一次応援隊を派遣されています. 以後, 順次支援隊を派遣中(当日は主として写真で説明をされました).

② 名古屋の下水道

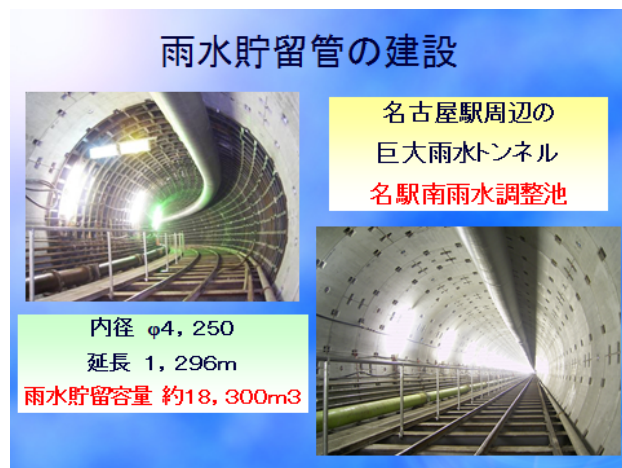
- a.名古屋下水道の歴史(明治41年2月創設
工事着手~平成24年:下水道供用開始100年)
- b.名古屋の下水道の概要説明:5つの目標
生活環境の改善, 浸水の防除, 自助・共助・公助,
公共用水域の水質保全, 資源の有効活用
- c.今後の下水道事業(排除・処理から活用・再生)

③ 雨に強いまちづくり

- a.都市型水害の特徴, 名古屋における近年の豪雨(100mm/hレベルの豪雨発生)
- b.総合的な浸水対策の推進
→1時間50mm降雨への対応→60mm対応
(東海豪雨, 平成20年8月豪雨)のハード対策
→ソフト対策(あまみず情報の提供)
- c.雨水流出抑制の必要性和現状
→都市化の進行による浸透・貯留量の減少
- d.自助・共助・公助の連携 →ハード対策は重要
一方, 整備のレベルには限界がある →更なる減災には市民の皆様の自助・共助も重要

(8) 最後に

講師の小野田氏は, 地震発生後不休で支援業務に当たっておられ, 当日の講演も参加者が少ないようであれば順延も考慮されたそうですが, 参加者が29名ということで第6回中部ジオ・テク塾を実行できました. 地震直後ということもあり, 名古屋市の支援状況も聞くことができるとともに, 名古屋市が取り組んでおられる下水道事業を判りやすく話題提供していただき, 参加者にとって, 大変参考になりました. 深くお礼を申し上げます.



雨水貯留管の建設等・整備効果

名古屋地方気象台における過去最大の1時間降雨量97mm(東海豪雨時の記録)に対し床上浸水の概ね解消をめざす(H21年度から約10年間) → 浸水の防除



(講師の小野田氏)



(植下先生もご出席されたジオ・テク塾の講演状況)